

### 地域防災と日本消防協会 平成28年度事業

公益財団法人 日本消防協会

日本消防協会は、86万人の消防団員に消防職員も加わったおよそ100万人近い消防団員・職員の全国組織です。そして、その活動では、地域防災の大きな要のひとつである消防団の活動環境の改善など、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の趣旨実現をめざしています。日本消防協会では、東日本大震災の経験をいかす今後の消防防災体制の方向を示すこのような法律の制定を要望していたのですが、国会議員の方々のご尽力によって、平成25年12月にこれが成立しましたので、翌26年8月、その趣旨実現を国民運動的に進めるため、幅広い多数の方々のご参加を頂いて初めての国民的大会を東京有楽町で開催しました。これは今年の防災推進国民会議の発足、今年の国民大会、全国各地のシンポジウムへとつながっていったように思われます。

日本消防協会では、さらに、今年10月、世界初の「地域防災と消防団」国際シンポジウムを東京で開催します。世界主要10か国に参加して頂いて、今や共通の課題になっている地域防災への取組状況をそれぞれ発表して頂いて、情報交流をします。これは我が国にとっても大きなプラスになるでしょう。

地域の防災体制づくりには、いろいろな活動をしておられる幅広い住民の皆さんのご参加が必要ですし、その中核になる消防団、消防署の皆さんの活動も大事です。そこで消防団につきましては、

○無線機や救助機材などまで含む装備の改善

○10月長野市での全国消防操法大会や6月札幌市での全国女性消防団員活性化大会の開催など技術、士気の一層の向上

○全国消防応援の店の展開など団員の福祉向上

などを進めています。

女性防火クラブ、幼・少年消防クラブ、自主防災組織などについては、全国的なリーダー養成、大会開催などで関係団体と協力しています。

そして、こういった方々、さらにはいろいろな企業や団体の皆さんまで加わって頂いて、何か具体的な行動をご一緒にやって頂くことができればいいと思われま。各地では防災運動会などいろいろ工夫がされていますが、日本消防協会では、何か災害があった時などを想定して、その時は皆さんでどう行動するかを普通の時に相談してメモにでも整理する、そして時々訓練、練習してみる、そういった地域の防災活動プランづくりをやってみましょうと、全国の消防団の皆さんに呼びかけたりしています。このような動きは、日本消防協会だけの活動ではありませんが、関係の方々と協力して、できる限りの活動をしてまいります。

## 消防団員の公務災害防止研修について

### 消防団員等公務災害補償等共済基金

消防団員等公務災害補償等共済基金（以下「消防基金」）では、消防団員の公務災害防止のために、次の4つの研修を実施される市町村等に助成・後援をしています（消防基金と公務災害補償契約を締結していない市町村等は除きます）。

それぞれの研修の概要については、次のとおりです。

#### ① 消防団員安全管理セミナー

消防団員の安全確保と健康増進等への理解を深めていただく、主に幹部を中心とする消防団員を対象とした座学研修です。

消防基金は30万円（参加者が100人以下の場合は20万円）の範囲内（講師旅費は含みません）で経費を助成するとともに、講師派遣などの後援を行っています。

#### ② S-KYT（消防団危険予知訓練）研修

消防団員が活動中の危険を予知し、危険に対して適切に対応する手法を習得していただく、主に班長（班長になる見込の者を含みます）以上の消防団員を対象に、少人数のチームを作ってメンバーが話し合いながら進めるグループワーク研修です。

消防基金は30万円の範囲内（講師旅費は含みません）で経費を助成するとともに、講師派遣などの後援を行っています。



防災お菓子ポーチ講習会集合写真

#### ③ 消防団員健康づくりセミナー

消防団員が健康増進に役立つ知識や運動実技の方法を習得していただく、幹部や一般の消防団員を対象とした研修です。日本赤十字社の講師による座学研修やNPO法人日本健康運動指導士会が推薦する健康運動指導士による体験型の研修となっています。

消防基金は、一定の範囲内（30万又は40万を上限額とし、講師旅費は含みません）で経費を助成するとともに、講師派遣などの後援を行っています。

#### ④ 消防団員災害救援ストレス対策研修

消防団員が災害現場で凄惨な場面に遭遇し、急性ストレス障害を発病するおそれがあることから、惨事ストレスの知識を習得していただく、幹部や一般の消防団員を対象とした座学研修です。

消防基金は、30万円（参加者が100人以下の場合は20万円）の範囲内（講師旅費は含みません）で経費を助成するとともに、講師派遣などの後援を行っています。

なお、それぞれの研修の実施状況については、当基金の季刊誌「広報消防基金」で紹介しています。消防基金ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

【⇒<http://www.syouboukikin.jp/publicity/>】

また、それぞれの研修の内容等については、消防基金ホームページに掲載されているパンフレット「研修会のごあんない」をご覧ください。

【⇒<http://www.syouboukikin.jp/intro/pdf/H28kensyukaigoannai.pdf>】



## あなたのスマートフォンであなたの地域を守ります

一般財団法人 消防防災科学センター

当センターは本年4月、「消防科学総合センター」から「消防防災科学センター」に名称を改め、これまで以上に地域防災力の向上に取り組むことといたしました。

その中で、現在、特に力を入れているのがスマートフォンを活用した災害応急活動支援システム「多助（たすけ）」です。今や多くの人の身近な情報ツールとなっているスマートフォンを使い、災害時に市町村、消防本部、消防団における情報の収集・伝達を双方向で円滑に行うシステムです。

その主な機能は、本システムに登録されたスマートフォンに対し、市町村の防災部局、消防本部等に置かれたパソコン又はタブレットから参集要請をメッセージで伝達（この機能はこれまでの携帯電話にも対応します。）するとともに、活動中に必要な指示や緊急事態の情報をメッセージで一斉に伝達します。また、登録されたスマートフォンから、災害状況を画像で市町村の防災部局、消防本部等に送信し、地図上でその画像を表示します。

これらの機能は、専用のアプリケーションをスマートフォンに入れていただくことで簡単に操作できます。本システムで使用するスマートフォンは登録された方が常時所持されているものを利用しますので、24時間・365日いつでも、どこにいてもご利用できます。しかも、画像や位置情報により、市町村の防災部局、消防本部等では、現地の情報を具体的に把握でき、応急対応の指示、応援部隊の投入、避難の必要性の有無などの判断をより迅速に行うことができます。なお、これら全ての通信はパケット通信で行いますので、音声通話に比べ災害時の通信規制の影響を受けにくくなっています。

本システムは、自治体において既に保有されている携帯無線機等の通信手段を補完し、自治体における災害時の情報力の強化を担うものであり、活動されている方々に緊急事態を一斉に知らせることにより、身の安全を図ることもできます。

平成28年度と29年度は、自治体に対し本システムを無料でお使いいただくことにしていますので、この機会に是非ともお試し下さい。災害時のみならず、地域内のパトロール、ごみの不法投棄や空き家あるいは熊、猪や鳥インフルエンザの監視など日常的な危機管理にもお役に立つことと思います。



「多助」のメイン画面の表示例

■お問合せ：「多助」普及推進室 電話0422-24-7810（直） / 0422-49-1113（代）

Eメール：tasuke@isad.or.jp、「多助」URL：http://www.isad.or.jp

## 実務者向けの事業

### 一般財団法人 日本防火・危機管理促進協会

地域防災力の充実強化のため、住民向け、実務者向けの事業を幅広く行います。

#### ■防火ポスター

秋と春の全国火災予防運動を広く周知する防火ポスターを秋春各15万枚作成し配布します。28年度はタレントの永野芽郁さんを起用します。

[27年度ポスター]



(秋)

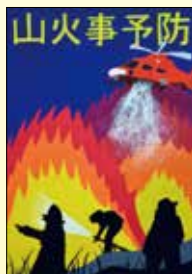


(春)

#### ■山火事防止用標識

毎年、たき火などによる山火事が多発していることから、山火事予防の啓発標識3,500枚を全国の消防本部に配布し、入山者の目に付き易い場所に設置します。

日本森林林業振興会が主催する山火事予防ポスターコンテスト中学生の部の消防庁長官賞受賞作を採用します。



[28年度採用作]

#### ■テレビ番組の放送

地域住民を対象とする防火・防災のイベントを福島県須賀川市のショッピングセンターで開催し、その模様を福島放送で放送します。イベントは地元消防本部との共催で、番組では、消防本部の日常の活動も紹介する予定です。



[27年度放送「川崎駅前 ルフロン」]

#### ■危機管理体制調査研究

大規模災害時に被災した自治体と支援した自治体が、その経験を確実に継承し、次の災害時に的確な対応が取れるよう、そのあり方や方策を調査研究します。熊本地震では、6月に現地に赴き、受援自治体と支援自治体双方の実情を調査しました。



[調査研究報告書]

#### ■危機管理研究会

地方自治体の危機管理担当者等を対象に、全国4か所で研究会を開催します。5月には札幌で、「地方創生に果たすイベントの役割と自治体の危機管理」と題し、5人の講師を招いて開催しました。続いて、大阪、仙台、東京で開催します。



[札幌研究会会場]

#### ■幼児向け防火DVD

未就学児向けの防火DVDを制作します。留守番時など子供だけの時に火事が起きたらどうしたら良いか、火事の熱や煙から身を守り安全に避難する方法を歌と踊りで身に付けさせます。



[消太くと  
防火体操しよう!]